

コロナ禍の中で気づいた小さな支えあいエピソード【一覧】

数か月前までは、人と会い、おしゃべりし、交流することが当たり前の生活としていました。新型コロナウイルス感染症の拡大防止により、私たちのこれまでであった普通の暮らしができなくなりました。

政府の緊急事態宣言により、「Stay Home」人との接触を減らし自宅で過ごすことが多くなり、緊急事態宣言解除後も、感染防止対策として政府からは「新しい生活様式」に切り替えることを求められています。

今だからこそ気づく、「普通の暮らしの幸せ」。

支えあいは、人が集まらなくても、おしゃべりできなくても、普通の暮らしの、日常にあるもの、と改めて感じる日々です。そのようなエピソードを、地域の皆さまとお話しする中で耳にするようになりました。

今後、ほっこりするエピソードを「小さな支えあいエピソード」として掲載していきます。

以下、いままでに頂戴したエピソードをご紹介します。

～見守り協力員のバトンリレー～

今回は、[地域見守り協力員事業](#)の協力員として長い間活動された A さん（80代）をご紹介します。

A さんが見守り協力員活動をしている中で、気がかりなことがありました。ある見守り利用者 B さんの様子がどこか素気なく、自分の訪問が歓迎されているのか不安になることがあったそうです。

ある時、社協職員が B さんと話す機会があり、以前自宅ベッドから転落した際に A さんに手助けをしてもらい、それ以来いつも頼りにしているとのこと。後日、その話を A さんに伝えると、とてもほっとされていました。

その後、B さんが亡くなられ、A さんからは見守り協力員を辞退したい旨のお話がありましたが、「今度は見守り利用者として新しい地域のつながりを作りませんか？」と社協職員から提案させていただきました。

新たに見守りの利用者となった A さん。見守り協力員との顔合わせ当日は緊張した様子でしたが、すぐに満面の笑みに。偶然にもお二人は以前から知り合いだったそうで、久しぶりの再会となりました。今回が初めての活動だった協力員さんは不安もあった中、この事業を通じて A さんと再び巡り会えたことに、何か不思議なご縁を感じたそうです。

顔合わせの終わりに、元協力員である A さんから新たな見守り協力員さんへ、「今度はあなたに（地域の見守り活動を）頼みますよ」との言葉があり、その笑顔はとても輝いていました。

これからも今回のようなボランティア活動のバトンリレーが地域に広まっていくように、地区支援担当として支援していきたいと思います。

※ [【地域見守り協力員事業】](#) 75 歳以上の一人暮らし、または 75 歳以上のみの世帯の方などを対象に、地域の支えあい活動として地域見守り協力員（ボランティア）が月 2 回程

